

中学生ハンドと小学生バスケ3チームが全国大会・九州大会での活躍を誓う！

1 小林中学校、三松中学校合同女子ハンドボールチーム

3月12日、小林中学校、三松中学校合同女子ハンドボールチームが、富山県で開催される第21回春の全国中学生ハンドボール選手権大会に出場することを市長に報告しました。里岡青空主将は「県の代表として、目の前の試合に挑みたい」と大会への意気込みを話しました。

2 小林中学校男子ハンドボール部

3月12日、小林中学校男子ハンドボール部が、鹿児島県で開催される第38回九州中学生選抜ハンドボール大会に出場することを市長に報告しました。上床陽翔主将は「ハンドボールを楽しみながら、1試合1試合に全力を尽くしたい」と大会への意気込みを話しました。

3 小林ミニバスケットボールクラブ

2月18日、小林ミニバスケットボールクラブが鹿児島県で開催される第46回U12九州バスケットボール鹿児島大会の女子の部に出場することを市長に報告しました。田畑希咲主将と吉村唯愛副主将は「チーム一丸となって勝利を目指す」と大会への意気込みを話しました。



市内の看護学生が看護の道へ踏み出す

3月5日、文化会館で小林看護医療専門学校の卒業式が行われました。式では、深見信子校長から卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡され、会場は温かな雰囲気になりました。卒業生30人は、同校で学んだ知識と誇りを胸に、看護の道を歩んでいきます。



成年後見制度の理解を深める講習会開催

3月10日、中央公民館で市民後見人セミナーが開催されました。市民後見人とは、判断能力が不十分な人の代わりに契約手続きや金銭管理等を行う一般市民。参加者は、実際に活動している人の話を聞き、市民後見人の活動について理解を深めていました。



小林のスポーツ振興に尽力した市内23団体・61人に栄誉

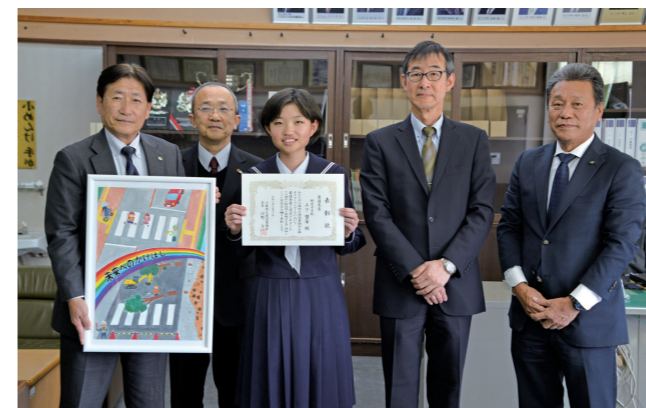
市のスポーツ振興や競技力の向上に大きく貢献した個人や団体をたたえる「スポーツ表彰式」(市スポーツ協会主催)が2月20日、文化会館で開催されました。今年度は、市のスポーツ発展に長年寄与した功労者や、全国・九州大会などで輝かしい成績を取った選手・団体・監督など合わせて23団体、61人が栄誉に輝きました。



スポーツ功労賞を受賞した、こばやしウォーキングクラブの松笠岩男さんは「これからも元気よく、笑顔で楽しく歩いていきたい」と意気込みました

建設業ポスターコンテスト開催 野尻中の山下さんが最優秀賞に

小林地区建設業協会(河野与一会長)が市内中学生を対象に行ったポスターコンテストで野尻中の山下盟苺さん(3年)の作品が最優秀賞を獲得しました。これは同協会が業界のPRや担い手確保につなげようと開いたもの。重機などを使い災害復旧に奮闘する姿などを描いた山下さんの作品が高く評価され、最優秀賞に選ばれました。



山下さんは「災害で崖崩れなどが起きたとき、建設業の人たちが頑張ってくれていなまちに戻してくれている。感謝の気持ちを込めて描いた」と話しました

カトリック幼稚園の園児らが寄付

2月19日、小林カトリック幼稚園(平田直園長)が市に寄付金を贈りました。世界の貧しい人や苦しんでいる人のため自分たちにできることをしたいと園児らがおこづかいを集めたもの。平田園長は「子どもたちの小さな勇気・愛が届くとうれしい」と話しました。



人権擁護委員 楠元充子さんが退任

長年市民の人権を守る活動に尽力し、昨年12月31日に人権擁護委員を退任した楠元充子さんに法務大臣と県人権擁護委員連合会長から感謝状が贈られ、2月19日に伝達式が行われました。楠元さんは「みんなが常に思いやりの気持ちを持つことが大事」と話しました。



サンキョーミート株式会社 小中学校の給食用に豚肉を寄贈

市内に食肉加工場をもつサンキョーミート株式会社(金森史浩代表取締役社長 写真④)が学校給食用に豚肉135kgを寄贈しました。1月30日には市役所で寄贈式が行われ、金森社長は「地域の将来を担う子どもたちにおいしい肉を食べてほしい」とあいさつ。提供された豚肉は2月19日に市内小・中学校21校の学校給食で提供されました。



同社からは学校給食用の豚肉の提供のほか、霧島山絶景ウォークや霧島山絶景マラソンでの振る舞いで使用する豚肉も無償で提供いただいています

「体続く限り安全啓発に努めたい」 内一幸さんが緑十字銀章を受章

1月14日に開かれた第66回交通安全国民運動中央大会(全日本交通安全協会・警察庁主催)で小林交通安全協会の内一幸会長が交通栄誉章である緑十字銀章を受章しました。2月19日には市役所で受章報告会が開かれ、内会長は「受章は活動を支えてくれた皆さまのおかげ。体が続く限り交通安全防止、啓発に努めていきたい」と話しました。



内会長は平成元年から同協会の役員として活躍。法令講習や通学路の点検活動をはじめ、地域の交通安全意識高揚に貢献したことが高く評価されました

2027年開催の国スポ・障スポを彩る小林市独自のPRポスター 原画デザイン最優秀賞に東方中の内木場さんと小林中の田中さん



原画作品をもとに作られたポスターとともに喜びの笑顔を見せる田中さん①と内木場さん②

一般の部 最優秀賞



小林中学校3年 田中 瑛響 さん

子どもの部 最優秀賞



東方中学校3年 内木場 暖 さん

田中さん

小林の美しい自然と、元気にスポーツを楽しむ姿を描きました。オール小林パワーで選手を応援し、みんなで大会を盛り上げたいという想いを込めています。

内木場さん

48年ぶりの開催に、変わらぬふるさとへの愛とスポーツを楽しむ心を描きました。笑顔あふれるまちの明るい未来を皆で紡ぎたいという願いを込めています。

2027年の日本のひなた宮崎国スポ・障スポ開催に向けた、PRポスター原画デザインコンクール表彰式が2月17日、KITTO小林で開かれました。コンテストは、市実行委員会が同大会の開催や市の魅力、市が行う健幸のまちづくりの取り組みなどを市内外に周知することを目的に企画したもの。市内で開催される国スポ6競技、障ス

ポ1競技を表現した作品など計271点の応募があり、子どもの部（小中学生対象）は東方中3年の内木場暖さん、一般の部（年齢制限なし）は小林中3年の田中瑛響さんが最優秀賞に輝きました。内木場さんの作品はリハーサル大会、田中さんの作品は本大会のポスターに採用され、競技会場や市内各施設などで掲示されます。

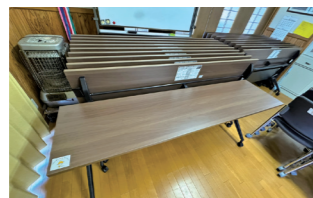
更生保護女性会が卒業生にしおりを贈呈

3月11日、西小林中学校で小林地区更生保護女性会（岩下由美会長）から卒業生にしおりとメッセージカードが贈られました。同会は、本をたくさん読んで、知識を深めてほしい思いから昨年に続き実施。小林市と高原町の中学校に贈られます。



コミュニティ助成事業で備品を整備

南西四区と南堤区常会長会が（一財）自治総合センター宝くじ社会貢献広報事業「コミュニティ助成事業」の助成金を受け、机やプロジェクターなどの備品を整備しました。助成金は宝くじの受託事業収入を財源とし、全国で社会のために役立てられています。



未来を担う子どもたちのために 続々集まる「こども応援基金」

将来を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくりを推進する「小林市こども応援基金」への支援が個人・団体の皆さまから多数集まっています。寄付金は子どもの貧困対策や少子化対策、子ども・子育て支援事業などに活用されます。



Photo ①吉留高志さん②、小園公平さん③から
②昭和46年野尻中学校卒業生同窓会（淵上鉄一会長）から



小林 JVC が全国の強豪校を打ち破りチーム初となる全国準優勝を果たす

3月13日、小林JVCが宮城県で開催された「T-FIVE CUP2025 全国大会」で準優勝したことを市長に報告しました。同チームは、九州代表として男子の部に混合チームで出場。夏の全国大会に続き、再び全国の舞台に挑みました。

大会1日目はリーグ戦が行われ、全試合で1セットも落とさず勝ち進み、2日目の決勝トーナメントに進出。準決勝では、夏の全国大会優勝チームと対戦しましたが、臆することなくチーム一丸となって勝利を掴み取りました。

決勝では、1セット目を先取するも、2セット目は体力の消耗もあり落とす展開に。迎えた3セット目では、粘り強いプレーで食い下がりましたが、15-12で惜しくも敗れ準優勝となりました。それでも、チーム結成以来初の快挙に選手たちは胸を張っていました。

馬崎風賀主将（小林小6年）は「全国大会で優勝経験のあるチームに勝ち、準優勝という結果が残せて良かった」と大会を振り返りました。



Photo ①市長を表敬訪問した小林JVC ②攻めのサーブで相手を崩す馬崎選手 ③ブロックの上から力強いスパイクを打ち込む中堂園選手 ④相手のスパイクをブロックする橋ノ口選手と黒木選手 ⑤試合前に円陣を組み、鼓舞する選手たち

平和リースが救急車購入費用を寄付

平和リース株式会社（松田真義代表取締役）から西諸広域行政事務組合に高規格救急車購入費用の一部として1100万円が寄付されました。3月11日には同組合で感謝状を贈呈。松田社長は「西諸地区の皆さんの命を1人でも多く救ってほしい」と話しました。



坂元区で認知症声かけ訓練を開催

2月28日、坂元区（中島信行区長）と市包括支援センターが認知症声かけ見守り訓練を開催しました。地域住民に認知症への理解を深めてほしいと企画されたもので、専門的な講座のほか、実際に状況を想定した実践的な声かけ体験などを行いました。



須木中生がふるさとの魅力発信 手作り観光パンフレットを制作

須木中学校の3年生6人が、須木の魅力が詰まった観光パンフレットを制作しました。授業の一環で約5か月かけて完成させたもので、パンフレットでは須木の観光スポットやグルメのほか、国スポ会場となる小野湖も紹介しています。今後、市内公共施設に設置されるほか、6人の後輩らが修学旅行先の関西地方で配布して須木をPRします。



パンフレット作成の中心役、中間悠斗さん（前列中央）は「須木を知らない人が手に取って、須木を訪れるきっかけになるとうれしい」と話しました